

2023.01.05

Vol.5

SSIQ

リコージャパン×北菱電興 座談会 — p2
From Strawberry Farm — p4
KIT WACE IRS 2022 に登壇! — p5
協賛イベント紹介 — p6
健康経営の取り組み — p6
台湾北菱特集 — p7
めんばーとーく — p7

×北菱電興
座談会企画


#あなたにとっての働きやすさとは？



>>DETAILS

近年、多様性やサステナビリティなどの考え方が普及する中、職場における働きやすさやコミュニケーションの重要性に注目が集まっています。今回は、リコージャパン石川支社様と共同企画で「あなたにとっての働きやすさとは？」をテーマに座談会を行いました！

リコージャパン株式会社 石川支社



むらかみのぶひこ
村上 喜彦さん
石川中央営業所 チーフ



さとう てつや
佐藤 哲也さん
LAグループ リーダー




おもろ にな
小室 二菜さん
ソリューション営業グループ

北菱電興株式会社



なかで あやか
中出 彩香さん
業務部 総合業務管理課
法務グループ



しみず としき
清水 俊綺さん
ICTソリューション部
ICT推進課



いながき ちはる
稲垣 千春さん
業務部 業務課 課長

一本日はお忙しい中お集まりいただきありがとうございます！

早速ですが、1つ目のテーマ「自社での情報共有における課題や取り組み」について教えてください。

(清水) 私が所属する課内では、常にTeams上で業務の進捗状況を確認していますが、社員が一律に同じ情報を持つことができる点と、メールよりも気軽にコミュニケーションを交わせるという点で非常に活用しやすいです。一方、部署ごとでツールの使用方針等に若干違いがあるのは現時点で課題に感じています。

(村上) 私も、チーム内ではコミュニケーションのやりとりを行う手段を共通化しています。ただ、チーム外の様々な部署とやりとりを行う場合は同じような課題を感じています。

(佐藤) チャットにおけるやり取りで意識していることとして、誰かが発信したことに対しては必ず反応するようにしています。ちょっとしたことですが、こういった働きかけを意識して行うのは大事だと感じます。

(村上) 佐藤さんはチャットボットかと思うくらいすぐリアクションが来ますからね。。笑 リアクションだけでなく、感謝の言葉も伝えてくれるので、そういった“ポジティブな”雰囲気や伝染させていくのはとても大切だと思います。

(小室) 私は入社後の研修の中で、「オンラインでやり取りする際には不安を感じやすいため、必ずリアクションボタンなどを押すように」と習いました。なので、社内の大きな掲示板などでリアクションするのに抵抗はなかったです。

(稲垣) 私の周りでも、新しいツールを使うのに苦手意識がある社員を、それが得意な若手社員にフォローしてもらうことで、楽しみながらツールを使いこなせるようになったことがあり、それ自身がコミュニケーションのきっかけとなってより二人の仲が深まったと聞きました。

(清水) 新しいツールが導入されたとき、中々一歩を踏み出しづらい方や、マニュアルを読むのに抵抗がある方もいらっしゃいますよね。

(佐藤) 私のチームでは毎朝朝礼を行うのですが、毎日一人ずつ「新しく発見したこと」を共有することを習慣づけています。新しく覚えたTeamsの機能でも良いですし、美味しかったランチのお店でも。そうすると、朝から良い雰囲気や仕事を始められます。

(中出) それくらい気軽にコミュニケーションがとれるのは良いですね。小難しい話からではなく、皆が会話に参加するハードルを下げるという意識も大切ですね！

一次に、「コロナ禍における理想のコミュニケーション」についてディスカッションしましょう！

中出さんや小室さんはコロナ禍以降に入社されていますが、社内でのコミュニケーションに課題は感じますか？

(中出) 以前は忘年会や行事などで仕事外の繋がりがあり、仕事では見られない社員の一面を見ることができたと思いますが、私自身そういった場が無かった中で、業務以外の話がしづらいつ感じることがあります。

(小室) 私も全く同じことを感じます。オフィスでは、業務以外の話はなんとなく聞きづらい雰囲気があったり、また、こまめに連絡を取れる人とそうでない人がおり、自分から働きかけないと業務の進捗状況などが分からないこともあります。

(村上) 私は社内のES(従業員満足度)向上のプロジェクトに携わっているのですが、話しやすい雰囲気づくりのため、様々な仕掛けを考えています。例えば、社員一人一人が自己紹介や、SDGsに対しての具体的なアクションを記載したスライドを1枚作り、社内のサイネージで流すという取り組みを行いました。実際に、それがきっかけで同じ趣味を持つ社員同士の新しいコミュニティが生まれたりもしました。

(清水) そういったコミュニケーションのきっかけづくりは大事ですね。社員と何かしらの共通項があると一気に親近感が湧きますし、その人がどんな人かというレッテルを自分が貼ってしまう前にそのような情報を得ることも大切だと思います。

(稲垣) そうですね。個人ではなくチームで仕事をしていく上では、人に興味を持たせるという取り組みは大切ですし、私自身も人を知るようにしなくてはと改めて感じました。

(小室) 実際に、社員の自己紹介スライドをサイネージで見ることで、最初は名前すら分からない状態から、徐々に趣味などを覚えていき、コミュニケーションのきっかけにもなりました。

(村上) 賛否はありますが、コミュニケーション活性化を目的として、フリーアドレスのフロア内でメンバーを週単位でシャッフルする取り組みをつい最近はじめました。こういった取り組みは、導入の目的を明らかにすることも大切しつつ、まずはやってみるという気持ちも大事にしたいと考えています。



—その他、自社で課題に感じることはありますか？

(村上) 業務における属人化はどうしても起こってしまいますよね。当社だけでなく、どの会社さんでも抱えられている課題だと思いますが、皆さんどのような取り組みを行ってらっしゃいますか？

(稲垣) 当社においても、事務職の社員で属人化してしまっていた業務があり、その解消を目的として私が現在所属している業務課が新設されました。業務の手順を統一したうえで、代理がきくようにしていく取り組みをまさにはじめたところです。今後は、お休みの取得がしやすく、気軽に相談できる環境をつくり、働きやすさに繋がればと考えています。

(小室) 私も業務の属人化が課題と感じており、仕事をペアにする体制をつくっています。若手社員からの働きかけも重要と感じます。

—最後に、今日の座談会を通して得た気づきを踏まえて、今後の具体的なアクションを発表しましょう！

(稲垣) 「コミュニケーション」の一言に尽きます。人と関わり合うことは、一番の悩みであり励みにもなると思います。皆が当事者だという自覚を持ちつつお互いをリスペクトしながら働きやすい環境をつくっていくということが理想です。

(佐藤) 「幸せを創造する文化の醸成」です。皆さんがどれだけ良い取り組みをしても、結局は組織の上層部の意識が無い限り、中々環境は変わらないと思います。私のような中間管理職が率先してそのような文化を作っていくことで、社員の働きやすさは大きく変わると思います。そのような誇りとプライドを持ちながら、日々の業務に取り組みたいと改めて感じました。

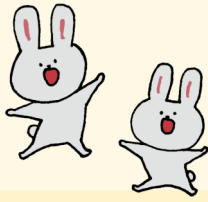
(清水) 「声掛けしやすい雰囲気を出す」とことと「自身からの発信」です。今日のディスカッションの中で、自分自身が話しかけにくい雰囲気をまとっている可能性があるということに再認識しました。まず自らの姿勢から変えていくことで、好循環をつくっていきたいと感じました。

(村上) 自分自身、本当に知らないところで話しかけにくい雰囲気をつくっていたかもしれないということにハッとしました。自分が「ポジティブ菌」になって良い取り組みを行い、それを見た人が真似をしたくなるような伝染をひろげていきたいと感じます。

(小室) 「年齢を問わずコミュニケーションを積極的にとる」です。年齢の近い方とは接点がたくさんありますが、上の世代の方とはあまり会話ができていなかったと改めて感じました。色々な方とコミュニケーションとることで、お客様との会話にも活かせると思うので、そういった点を意識していきたいです。

(中出) 現在社内報の制作に携わっており、だからこそ、「どうやったら伝わるか」という発信面ばかりに目が行き過ぎていたと感じました。誰かが何かを伝えたことに対して、反応があるからこそ「もっと伝えたい」「もっと聞きたい」という輪が広がると思います。相手の発信に対してリアクションと感謝の気持ちを伝えることでポジティブな意思疎通になっていくということ意識し、早速実践していきたいと感じます。

—皆さま、本日はありがとうございました。本日の座談会で得たことをもとに、社内外での新たな取り組みのきっかけや好循環をつくっていきましょう！



リコージャパン石川支社の皆さま、この度はありがとうございました！

>>TO BE CONTINUED...



From Strawberry Farm



MRO開局70周年番組内の企画がきっかけで翠星高校食品科学研究会によって開発された「酒米粉クレープ」。美味しくてもいいだけじゃない、地産地消の推進&フードロス削減がテーマの“SDGsな”クレープ！生地には白山市産の「酒米削り粉」を、ソースにはいちごファームHakusanで収穫された規格外のイチゴを使用しています。今回は本企画に携わった食品科学研究会から3名と、食品科学研究会と継続して地産地消連携事業を行っている白山市地産地消課にお話を伺いました。

どうしていちごファームHakusanのイチゴを採用いただいたのでしょうか？

クレープの人気フレーバーを調査したところ上位にイチゴがありました。白山市地産地消課からいちごファームHakusanをご紹介いただき、地元産のイチゴを使用することで地域がより一層盛り上がりたばと採用させていただきました。

開発で苦労したこと、工夫したポイントはありますか？

酒米削り粉は扱いが難しく、適切な配合を見つけるため、ミーティングや試作を繰り返しました。番組内では見た目も楽しいクレープにすればどうか？とアドバイスをいただき、生地の色をイチゴをイメージした2色（緑とピンク）にしました。

商品にこめられた思いを教えてください。

いろんな世代の方に楽しく食べてもらってフードロスを減らしたいという思いです。実際に召し上がったお客様向けのアンケートでは、美味しかったという回答が多くとても嬉しかったです。食べていただいた方々に感謝です。今後も地元白山市の農業活性化のために様々な活動に取り組んでいきたいです。

食品科学研究会の
紹介ページは[こちら](#)



SUISEI-FACTORY
スイセイファクトリー

石川県立翠星高等学校
食品科学研究会



石川県立翠星高等学校 食品科学研究会

上谷さん（1年）、平田さん（2年）、部長 佐藤さん（3年）

SUISEI-FACTORY

Strawberry Farm Hakusan

HAKUSAN City

食品科学研究会へは何を期待して依頼されたのでしょうか？

生徒ならではの柔軟な視点や発想です。地産地消課では「地元の農作物が消費されることで農業が活性化し、農業従事者が増える」ことを目指し、地元の農作物を活用した企画や商品開発を行っています。同じく地域の農業振興を目指し様々な活動をされている食品科学研究会に魅力的な商品を開発してほしいという思いがありました。

今回の企画についてどう思われますか？

フードロス削減という側面で非常に良いものが出来上がったと思います。酒米削り粉は煎饼の材料や飼料など使い道は限られていましたが、食材としての新たな活用を考案されたことに大きな意義があると思います。これをきっかけに、活用の幅が広がっていくことを願っています。

白山市にとって「いちごファームHakusan」とは？

稲作中心の石川県でフルーツの生産を行ういちごファームHakusanは貴重な存在です。「白山めぐみ博」で行っているイチゴ栽培体験企画では、特に子供たちに喜んでもらえるのが嬉しいです。



白山めぐみ博の
紹介ページは[こちら](#)



白山市産業部地産地消課 課長

二口 一範 さん

KIT WACE IRS 2022



8月31日～9月2日の期間中、金沢工業大学にて「WACE The 4th International Research Symposium 2022」が開催されました。本イベントはWACE（世界産学連携教育協会）が主催する国際会議で、産学連携教育に関する世界各国の研究・事例発表や情報・ノウハウ交換などが行われました。

本イベントの「ジャパンプログラム」にて当社企画室の酒元が登壇し、KITx北菱電興のコーオプ教育活動について紹介しました。また、昨年度本活動に参加いただいた金沢工業大学の西尾すみれさんも、本イベントの「研究発表 セッション」で発表されました。



北菱電興

コーオプ教育

共同研究統括者



北菱電興
企画本部 企画室
酒元一幸

登壇者に Interview!!

ーコーオプ教育活動で誇らしく思ったこと

経営層をはじめ、会社がこの活動に意義を感じ、後押しをしてくれたことです。関わる社員が楽しく活動している姿を見られたことや、活動に参加された西尾さんが“人”を大切にすることの姿勢に共感して下さったことは非常に嬉しかったですね。

ー当社のコーオプ教育活動で大切にしていること

活動メンバーには活動に“失敗”は無く、“チャレンジ”していくという気持ちを大切にしながら、取り組んでいただいています。また、実際にプロジェクトに携わったメンバーが成長し、やりがいを感じる事が非常に大事だと思います。結果として本取組みはチームの関係の質の向上に繋がっていると感じます。

ー社員に伝えたいこと

自分自身が大切にしている価値観と、会社が大切にしている価値観の共通項が見つかれば、やりがいの向上に繋がると思います。皆さんには大きな可能性があると感じています。与えられる仕事の枠にとらわれず、主体性をもって挑戦する姿勢を共に大切にしていきたいと思います。



コーオプ教育関係者

ーコーオプ教育活動で得られたもの

自身の強みや至らない部分を把握でき、学生としてまだ学べる時間があるということが強みだという気づきを得ました。就活の際にも、本活動をベースに自身について振り返ることができました。他にも、自分のコミュニケーション能力における成長や、チームとして意見することの重要性を感じました。

ー本活動で良かった点

色々な点で成長できたのはもちろん、様々な年齢層・立場の方々と関わる機会をいただけたのも非常に良かったと思います。学生はこのような機会が中々ないので、本活動を通して企業のリアルな課題感に触れることができ、学びは多かったです。上の役職の方でも物腰柔らかく、自分の意見を大切にしてくれるということが伝わりました。

ー国際規模のイベントに登壇されたご感想

色々な国で自分の経験が採用される可能性があるのは、国際学会ならではすごいところだと感じます。英語でのスピーチは大きな挑戦でしたが、発表後、視聴者の先生方がほめていたと聞き、嬉しかったです。英語の勉強に対してのモチベーションがあがっているため、今後は学習により力を入れていきたいです。

ー発表で一番伝えたかったこと

学校で学べないこと、社会に出てみないと分からないことがたくさんあり、学校の外に出たからこそ成長できた点がたくさんありました。当日は、コーオプ教育の参加者として良い経験をしたということ色んな国の視聴者に伝えたいと考えていました。

北菱電興

コーオプ教育

参加学生



金沢工業大学大学院
工学研究科機械工学専攻
博士前期課程(修士課程)2年
西尾すみれさん

「KITx北菱コーオプ教育」の詳細は[こちら](#)！



「KIT WACE IRS 2022」の詳細は[こちら](#)！



協賛イベントをご紹介します!

当社は子どもたちの“Try the next”を応援するイベントに協賛しています。
本記事では今年度協賛したイベントのうち、一部をご紹介します♪

#加能ガニロボットコンテスト

2022年11月13日(日)9:00-16:00
@ビジネスITプラザ武蔵6F交流室



こういったイベントを通して、
子どもたちの成長や将来の
夢を後押しできれば良いですね♪
当社は今年1月22日(日)に
開催予定の『カナザワ ドローン
プログラミングチャレンジ2023』
にも協賛しております。
大会当日が楽しみです!



イベント詳細は
[こちら!](#)



#physical

#ドックの費用補助

- ・人間ドック受診費用の補助(40才・50才対象)
- ・日帰りドック受診費用の補助(全員)

#健康診断結果から再検査が
必要な社員へのフォローアップ

#健康セミナー開催

#健康診断の受診率100%

#一般的な健康診断+α

- ・大腸検査(全員)
- ・ABC検査(35才対象)
- ※胃がんのリスク分析



ヨガ教室の様子

Our Health Management

当社の健康経営は『早期発見・早期治療』を目標に、
からだところどころの両面から社員の健康を
サポートする体制をとっています。

いしかわ健康経営優良企業知事表彰
協会けんぽ かがやき健康企業宣言
白山商工会議所 健康経営取組認定事業所

#産業カウンセラーによる
定期的な社内巡視

#メンタルヘルスに関する
社内研修の実施

#産業カウンセラーによるカウンセリング

- ・入社・復職・異動の3カ月後は必ず実施
- ・メンタルに不調を感じる希望者はいつでも実施可能

#mental

社外メンタルヘルス相談窓口
産業カウンセラー
(株)メル 宮森 弘美様

台湾北菱特集

台湾北菱について紹介するコーナー。
今回は台湾北菱の創業の経緯、キャッチコピーについて紹介いたします。

2019年
翻訳・通訳事業創立

1997年

台湾北菱股份有限公司を創立

調達ビジネス創立

*From Ishikawa To Taiwan,
Taiwan To The World*

台湾北菱 創業の経緯

台湾北菱は台湾台北市にある北菱電興のグループ会社です。主要客先の海外品調達の動きへの対処、そして、海外展開の可能性を探ることを目的に、当社の新しいチャレンジとして1997年に創立され、当初は3名の社員が



台湾北菱



台湾北菱社員

交代制で駐在していました。立ち上げまでは試行錯誤し、言語の勉強会も行いました。現在、合計9名の社員（台湾人8名、日本人駐在員1名）が在籍し、主に調達ビジネスと翻訳・通訳ビジネスを展開しています。

「From Ishikawa to Taiwan, Taiwan to the World」は、台湾北菱のホームページに記載されているキャッチコピーです。台湾北菱の事業内容と国際的な企業になっていきたいという未来に向けた期待を一言で表現したいと思い、このキャッチコピーを提案しました！



ライチエンイェ

台湾北菱 賴芋暉さん

次回は、台湾北菱の調達ビジネスについて紹介させていただきます！是非ご覧ください！

台湾北菱股份有限公司

タイワン バイリン グウフェン ヨウシエン ゴンスー
首 頁 | 台湾北菱股份有限公司 (hokuryo.com.tw)



めんばーとーく



スイカ『社外報5号、完成！！皆さんお疲れ様でした～^^』

ミルク『今回の社外報は、今までで一番多くの社外の皆さんにご協力いただいた回になりましたね！

たくさんの方々との間に共感が生まれたと感じます。特に座談会企画には私自身も出演し、・・・』

マサオ『あ！だめだめ！匿名ニックネームが身バレしてしまう！！笑』

ミルク『危うく“ミルク”の正体が明らかになるところでした・・・』

スイカ『たぶんもうバレちゃってます！！笑』

—— 気づいたときには「時すでに遅し」なめんばーであった。

*めんばーとーくとは？

社内報での連載コーナー。編集メンバーの雑談を、ペンネームを用いてお届けしています。読んでいただいた方が「Smile」になるよう、とにかくゆる～く発信することを意識しています^^

Smart Smile Letter



当社では2019年より全社員参加型プロジェクトである「Smart Smile Project」を発足しており、2020年1月よりその取り組みの一環として社内報プロジェクト「Smart Smile Letter」がスタートしました。メンバーである若手社員ならではの視点から、社内報の制作に携わるすべての人たちや読み手に「Smile」を届け、活動を通して“人と人の繋がりを築いていく”ことを目的として活動しています。

>>社外報 バックナンバー

